

東三河スタートアップ・サテライト支援拠点検討プロジェクトチーム

第3回会議 次第

日 時 2021年3月22日(月)

10:00~11:00

開催方法 Web会議

1 開会

2 あいさつ

3 出席者紹介

4 議題

- (1) ワーキンググループにおける検討結果について
- (2) スタートアップに関連する取組等について

5 閉会

(配付資料)

- ・資料1 東三河スタートアップ・サテライト支援拠点に関する検討経過
- ・資料2 東三河スタートアップ・サテライト支援拠点に関する検討結果(案)
- ・資料3 2021年度 東三河サテライト支援拠点に係る連携可能性事業
- ・資料4 東三河スタートアップ・サテライト支援拠点の概念図(案)
- ・参考1 スタートアップ支援拠点の展開(ステーションAi、サテライト支援拠点)
- ・参考2 愛知県のスタートアップ主要事業一覧
- ・参考3 2021年度当初予算の概要

**東三河スタートアップ・サテライト支援拠点検討プロジェクトチーム
第3回会議 出席者名簿**

区分	氏名	所属	役職
リーダー	かみの 神野 吾郎	東三河広域経済連合会	会長
サブリーダー	まつい 松井 圭介	愛知県	副知事
チーム員 (企業)	あかま 赤間 真吾	中部ガス不動産株式会社 (サーラグループ)	専務取締役
	いさく 伊作 猛	武蔵精密工業株式会社	常務執行役員
	いしぐろ 石黒 功	イノチオホールディングス株式会社	代表取締役社長
	ほりうち 堀内 かずたか 一孝	株式会社サイエンス・クリエイト	副社長
(大学)	やまもと 山本 進一	豊橋技術科学大学	理事・副学長
(行政)	のじり 野尻 のりお 典夫	東三河広域連合	事務局長

(敬称略)

東三河スタートアップ・サテライト支援拠点に関する
検討経過（第2回PT以降）

<2020.10.22 第2回PT>

【開催結果】

WGにおける検討状況を事務局から説明の上、東三河サテライト支援拠点における取組の方向について合意。（以下、一部抜粋）

【当面の取組テーマ】

「農業・食」

【具体的な取組イメージ】

- 東三河地域において県の統括マネージャーによる支援
- 地域が一体となった取組（イベントの連携開催など）の推進

【今後の検討事項】

- 1 取組イメージ（①統括マネージャーの活動環境、②地域が一体となった取組）の具体化
- 2 サテライト支援拠点の範囲と考え方・運営体制

【発言要旨】

- 地域に個々のプロジェクトはたくさんあるが、どういう状況なのか共有が足りていない。また、先端農業などに取り組む地域の人達が乗ってきたくようなプラットフォームがあると、もっと活性化すると思う。
- それぞれの取組の情報共有が、まだ十分にはできていない。サテライト支援拠点として、全体を総括する仕組みがあると良いのではないかと思う。
- それぞれが先端の取組をやっているが、バラバラだからもったいない。もっとシナジーを発揮できると良い。
- どういうプロジェクトをやるかが大事で、そのプロジェクトに応じてサテライトの組織とどのように連動させるかだと思う。
- （東三河独自の土壌を生かした取組など）東三河をブランディングする取組を、みんなで作っていったら良いと思う。
- 市町村はスタートアップの風土づくり、入口を広げる役割を担っていく形が良いと思う。

<第2回PT後の取組>

【2020.11～2021.1 WGメンバーへのアンケート・個別ヒアリング】

第2回PTでの発言内容を踏まえ、東三河サテライト支援拠点の具体化に向けたアンケート・個別ヒアリングを実施。

○ アンケート・ヒアリング内容

- ① 統括マネージャーへの期待（活用希望、求める能力）
- ② 「農業・食」をテーマとしたイベントの連携開催に向け、各機関が行う連携可能なイベント
- ③ 「農業・食」に関する各機関や地域の取組
- ④ 東三河サテライト支援拠点の体制等の具体化に向けた、(1)個々のプロジェクトの状況共有手法、(2)地域におけるプラットフォームの機能、(3)地域全体を総括する仕組みについての意見

【2021.2.3 第3回WG開催結果】

- 第2回PT及び個別ヒアリングの結果を踏まえ、東三河サテライト支援拠点の具体化に向けた検討結果案をまとめた。

東三河スタートアップ・サテライト支援拠点に関する 検討結果（案）について

【サテライト支援拠点の在り方】

東三河地域の支援機関、企業、大学、自治体等で構成し、新たに立ち上げるスタートアップの推進協議会を中心としたスタートアップの推進体制を東三河サテライト支援拠点とする。

＜当面の取組テーマ＞

「農業・食」

＜支援の考え方＞

- 東三河地域におけるスタートアップを創出・育成し、優秀なスタートアップの海外や地域外への展開を促す。
- 世界や地域外から「農業・食」（地域の強み）に関わる有力なスタートアップや優秀な人材を東三河地域に呼び込む。

＜運営体制＞

- 本推進協議会は地域主体で運営する。推進協議会は、2021年11月頃に開催予定の連携イベントまでに立ち上げることを目指し、4月からは本PTを発展的に解消した上で、準備協議会（PTと同メンバー）を立ち上げる。

なお、準備協議会の間は、準備期間として地域の機関及び県が事務局を担う。

（事務局案）準備協議会（～10月頃）：サイエンス・クリエイト及び県

推進協議会（10月頃～）：サイエンス・クリエイト

- 地域の支援機関がメインの役割を果たしつつ、県外などにネットワークを持った統括マネージャーや地域の関係機関がサポートする体制を構築していく。

なお、統括マネージャーは、PT構成員の支援拠点であるCLUE、emCAMPUS、Startup Garageを活動の拠点とする。

＜推進協議会の主な役割＞

- 継続的なピッチイベント等の開催により、当地域における情報共有化及びスタートアップ創出育成の機運醸成を図る。
- 地域におけるプラットフォームとして、地域を巻き込んだプロジェクト支援や定期的なピッチイベント等による情報発信を行う。

＜来年度の具体的な取組案＞

東三河地域の支援機関等で構成するスタートアップの推進協議会を新たに立ち上げ、県が東三河地域に新たに設置する統括マネージャーと連携の上、地域が一体となった以下の取組を推進する。

○ 「農業・食」を中心テーマとしたイベントの連携開催

豊橋駅前大通二丁目再開発により新たに整備される拠点（emCAMPUS）

のオープンをPRの好機と捉え、2021年11月頃の一定期間において

「農業・食」を中心テーマとした複数のイベントを各機関が連携開催することで、東三河サテライト支援拠点が「農業・食」を強みとしていることを発信し、スタートアップ等の呼込を図る。

※ 上記期間以外にも、各機関が「農業・食」をテーマとする様々な取組を実施。また、浜松地域の機関と連携した取組についても実施。

○ スタートアップの成功事例創出の推進

東三河地域における地域の強みを生かしたスタートアップの取組について、統括マネージャーの知見や、地域の各機関の持つリソース等を活用した支援を行うことにより、地域を挙げて成功事例を創出していく。

＜取組事例候補＞

- ・ 東三河独自の土壌で育った植物の成分を特許技術により抽出し、活用したヘルスケア製品の展開
- ・ 衛星データの活用によるスマート農業の環境整備や倒木被害の早期発見に向けた事業の展開
- ・ 人手不足に悩む農家と働きたい個人のニーズのマッチングなど農業支援サービスの展開
- ・ まちなかにおける植物工場・屋上農園の展開

＜想定スケジュール＞

- ・ 2021年4月 東三河地域に統括マネージャーを設置
- ・ 2021年5月～ 準備協議会の設置、会議開催
- ・ 2021年10月～11月頃 連携イベントの開催、推進協議会（サテライト支援拠点）の設置

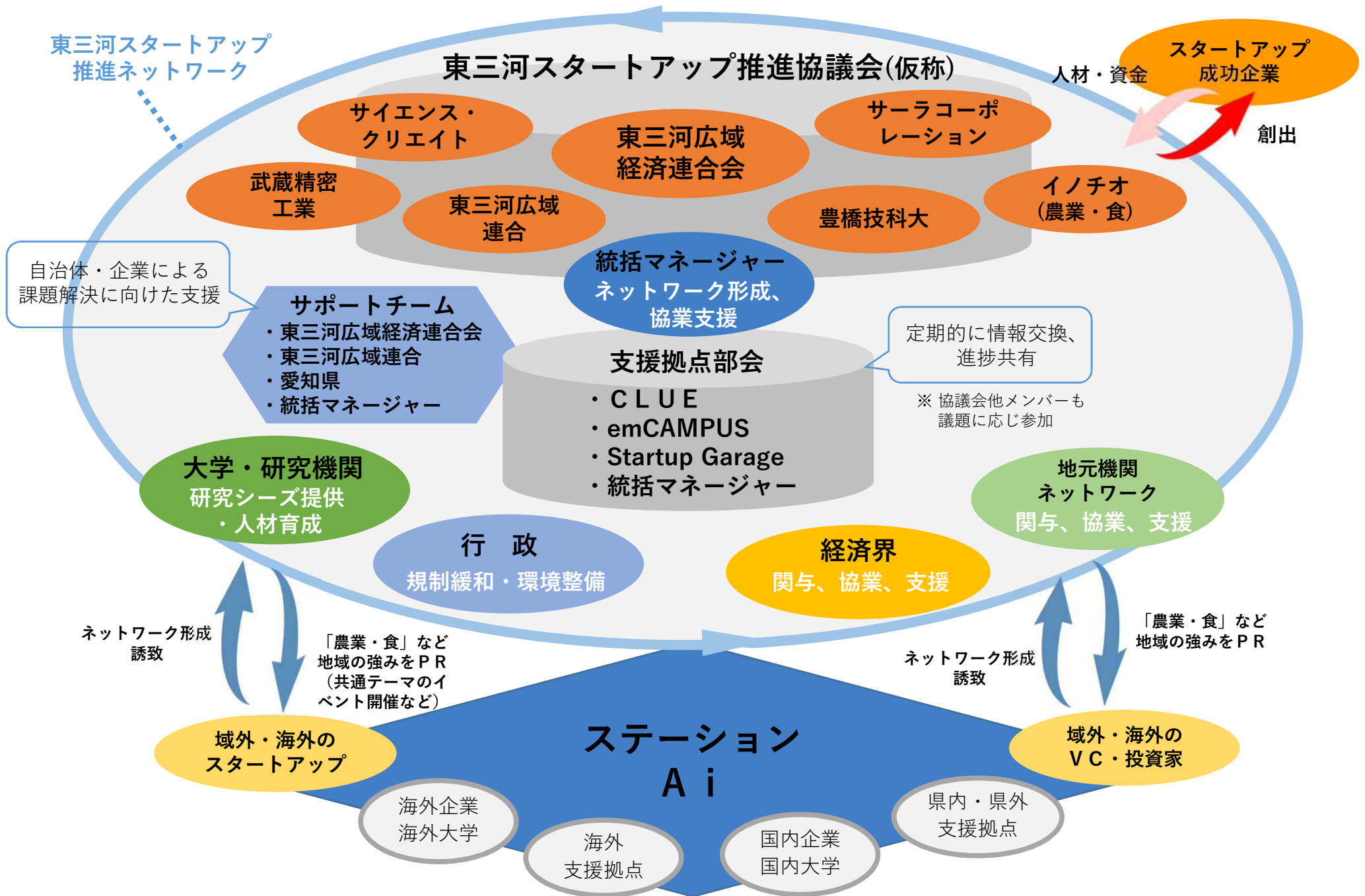
2021年度 東三河サテライト支援拠点に係る連携可能性事業

資料3

- 2021年11月頃の一定期間を『農と食のスタートアップ/イノベーションシーズン(仮)』(以下、「イベントシーズン」という。)として、「農業・食」を中心テーマとするイベント等を地域の支援機関等と連携開催し、東三河の強みを発信していく。
- 上記期間以外にも、各機関が「農業・食」をテーマとする様々な取組を実施していく。

開催 (案)	区分	事業名	団体名	事業内容	主な対象			備考 (補足説明等)
					一般	スタート アップ	既存 企業	
イベント シーズン	ネットワーク 拡大	ピッチイベント	CLUE	農業・食をテーマとしたピッチイベントの開催。	○	○	○	
	ネットワーク 拡大	豊橋駅前二丁目再開発施設を利用した「農業・食＝東三河」をインプリメンティングするイベント	サーラコーポレーション	東三河地域の「食材」と「食」のPR、関連事業やテクノロジーのピッチイベントなどの開催。	○	○	○	
	ネットワーク 拡大	東三河地域のネットワーク拡大・PRイベント	県	「農業・食」を中心テーマとしたスタートアップ関係者のネットワーク拡大及び地域のPRに資するセミナー、トークセッション等を東三河・浜松地域の関係機関と連携し、開催する。	○	○	○	
	ゼロイチ	東三河ビジネスプランコンテスト	サイエンス・クリエイト 東三河広域連合 豊橋商工会議所	東三河で起業を目指す人を多角的に支援し、地域産業の活性化を図るために開催。(「農業・食」をテーマとした部門を設ける、「農業・食」分野のビジネスプランを集中的に支援するなどの連携が考えられる。)	○	○	○	
	ゼロイチ	インキュベーションプログラム	CLUE	インキュベーションプログラムの開催。(「農業・食」をテーマにする可能性がある。)	○	○	○	開催可能性について今後検討
	学び	イノベーターズvoice	CLUE Startup Garage(共催)	三遠地方の起業家等を招き、起業の経緯や今後の展望などを紹介してもらおうオンラインイベント。(「農業・食」分野の起業家等に登壇してもらうことも可能。)	○	○	○	
	学び	農工ハッカソン	サイエンス・クリエイト	農業分野における課題を「ものづくり」「テクノロジー」で解決するために「農工ハッカソン」を開催し、フォローアップを行う。	○	○	○	2021年度の開催について今後検討
	人材育成	豊橋市中小企業人材育成支援研修	サイエンス・クリエイト	HACCPの導入支援や、ドローン操縦者の養成、新規ビジネスプラン作成、ブランディング、マーケティング、SDGs等に関する講座を実施。	○	○	○	7-11月頃に各講座を開催
イベント シーズン 以外	ネットワーク 拡大	マッチングイベント(ピッチを含む)	県	農業・食をテーマとしたピッチを含むマッチングイベントの開催。	○	○	○	
	学び	IT農業に係るシンポジウム	豊橋技術科学大学	本学先端農業・バイオリサーチセンター主催の植物工場、IT食農先導士などの人材育成事業の修了生(IT農業ネットワーク)によるシンポジウムなどイベントの開催。	○	○	○	IT農業に係る成果発表と同時開催
	学び	IT農業に係る研究成果発表	豊橋技術科学大学	IT農業に係る研究成果の発表及び展示会の開催。		○	○	
	学び	イノベーション創出に関する講座	県	農業・食に関するイノベーション先進事例等をテーマとする講座の開催。		○	○	
	農産物の 出口	乙女の食卓	サイエンス・クリエイト	東三河の農水畜産物と加工品を用いて新感覚のフレンチを提供する、食と農の特別なイベント。	○		○	
通年	人材育成	次世代「農力」UPアカデミー事業	豊橋技術科学大学 サイエンス・クリエイト	「最先端植物工場マネージャー育成プログラム」、「IT食農先導士養成プログラム」、「6次産業化推進人材育成プログラム」などの先端農業人材育成事業。	○		○	年間を通して各プログラムを開催

東三河スタートアップ推進協議会の取組を中心に、産学官等の関係者が緊密に連携し、エコシステムの形成を推進



スタートアップ支援拠点の展開

参考 1

中核支援拠点「ステーションAi」

- スタートアップの創出・誘致・展開を柱とする地域総合戦略「Aichi-Startup戦略」を策定
- ニューリアリティ対応型の世界初・世界最高レベルの中核支援拠点「ステーション Ai」を整備
- 世界最高クラスの海外スタートアップ支援機関・大学との連携を通じて、世界最高品質のスタートアップ支援プログラム等をワンストップ・ワンループで提供

2021予算
64,340千円

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大を契機として、急速に進展する非接触・モバイル化などデジタルシフトに対応する高度通信、リモート、DX推進環境を整備
- ・ With/Afterコロナに対応するゾーニング、レイアウト、オフィスデザインを実現
- ・ 世界最大のスタートアップ支援拠点であるステーションF（1,100社、4,000人入居）に匹敵する日本最大級のニューリアリティ対応型中核支援拠点



出典：国土地理院

2024年度 オープン予定

高層階	・ 宿泊・研修施設
↓	
低層階	・ スタートアップ・パートナー企業、海外スタートアップ支援機関等向けオフィス ・ テック・ラボ機能（試作品開発・評価等） ・ 会議室／行政支援窓口
	→
	・ カフェ・レストラン等 ・ セミナールーム

デジタルシフトへの対応

海外の先進スタートアップ・エコシステム

愛知県が連携・連携を目指すスタートアップ支援機関・大学



【事業規模（想定）】

- 床面積：約30,000㎡ **〔日本最大〕**
- 利用者数：1,000者 **〔日本最大〕**

スタートアップ・エコシステム グローバル拠点都市

- 愛知・名古屋に浜松を加えた「Central Japan Startup Ecosystem Consortium」として、愛知県、名古屋市、浜松市、（一社）中部経済連合会、名古屋大学などとともに「グローバル拠点都市」に認定（2020年7月14日 内閣府認定）
- 世界有数のスタートアップ・グローバルコミュニティの形成を推進

あいちスタートアップ・エコシステム

185者によるスタートアップ・エコシステム構築基盤組織を2018年4月に設立（メンバー数は2021年2月25日現在）



地域総合戦略
「Aichi-Startup戦略」

国際的なイノベーション創出の拠点形成

スタートアップ支援拠点の展開

サテライト支援拠点

- **目的** 愛知県におけるスタートアップ・エコシステム形成に向け、中核支援拠点「ステーションA i」を核として、県内各地域に「ステーションA i」と連携するサテライト支援拠点を設置し、ネットワークの構築を図る。
- **内容** 県内各地域の特性や強みを生かした、テーマ・分野別のサテライト支援拠点の設置を推進する。

「Aichi-Startup」ネットワーク構築イメージ

○ **ステーションA i**

国内外の企業、大学、研究機関、支援機関、スタートアップ等とのネットワークを構築。

○ **サテライト支援拠点**

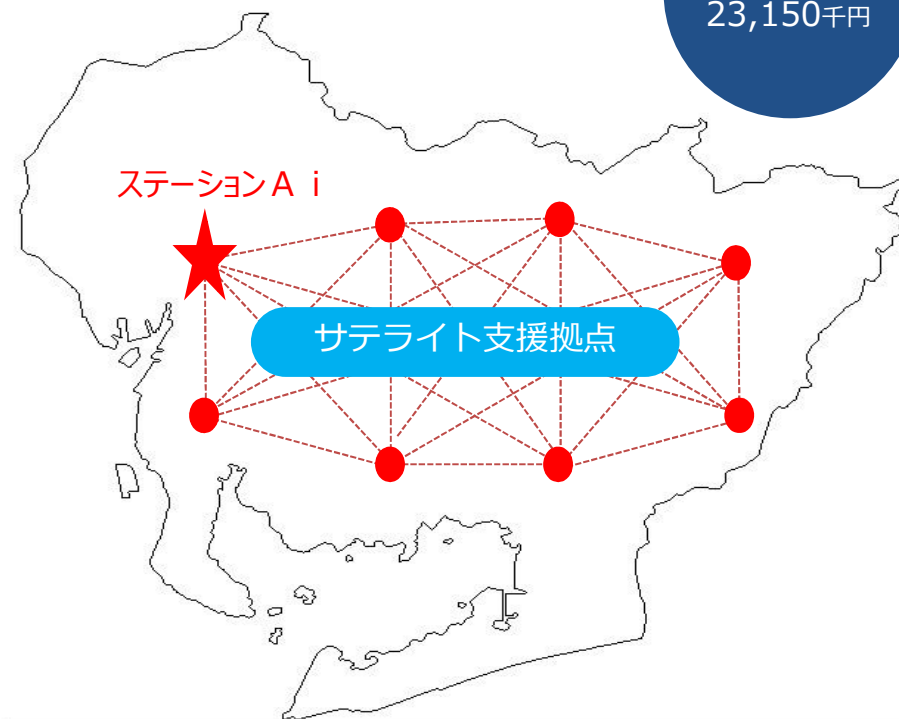
県内各地域で主体的にスタートアップ支援に取り組む機関等をサテライト支援拠点とし、各機関の強みを生かした独自のネットワーク、地元の企業等のネットワークを構築。

サテライト支援拠点の位置付け

- ステーションA iと地域のスタートアップに係るコミュニティを構成する各主体を結びつけるローカルハブ。
- 地域のスタートアップ支援拠点であり、地元市町村、企業、大学等による自主的な事業展開を図ることが重要。

▶ **地域の関係機関の主体的な関与の下、県内各地域における設置を推進**

2021予算
23,150千円



- 東三河地域においては、地元関係機関によるプロジェクトチーム（リーダー：東三河広域経済連合会 神野会長）により設置に向け検討中。

Later

Expansion

Early

Seed

- ▶ A² Startup Program 
- ▶ Aichi China Innovation Program
- ▶ スタートアップ 海外開支援プログラム (ジェトロ)

- ▶ Smart Sustainable City Co-Creation Challenge (Singapore)
- ▶ Aichi China Innovation Program
- ▶ あいち マッチング 

- ▶ あいち スタートアップ 制度融資
- ▶ 新あいち創造 研究開発補助金
- ▶ 新型コロナウイルス 感染症対策新サービス 創出支援事業費補助金

- ▶ J-Startup CENTRAL 

- ▶ ▶ ローカル・グローバル連携 スタートアップ支援事業 Aichi Open innovation Accelerator

- ▶ ステーションA i 早期支援拠点 

- ▶ A² Online readiness program 

- ▶ あいち スタートアップ キャンプ 
- ▶ Aichi-Startupビジネス プランコンテスト

- ▶ あいちパートナーvc
- ▶ あいちスタートアップ 創業支援事業費補助金

活動場所提供
総合支援拠点

海外展開


創出/育成

オープンイノベーション
スタートアップ誘致

資金調達

その他

海外のスタートアップ支援機関によるナレッジシェア
(Texas University, Singapore University, Paris & Co, IMT Atlantique)

試作品開発支援 
あいちモノづくりネットワーク構築支援事業

イントレプレナー教育
INSEAD Innovation Program

外国人創業支援
あいちスタートアップビザ

スタートアップを起爆剤に、持続的にイノベーションを創出する愛知県独自のエコシステムの形成を目指します

とりまとめ
経済産業局スタートアップ推進課
戦略推進グループ
内線 3676・3464
(ダイヤルイン)052-954-6331

予算額 797,506千円

(外に債務負担行為 14,378,000千円)

「Aichi-Startup 戦略」(2019年12月改定)の根幹をなす「ステーションA iプロジェクト」に基づき、スタートアップの新たなアイデアとモノづくりの優れた技術との融合によるイノベーションを誘発し、本県産業の成長を拡大させるエコシステム形成の取組を一層強化します。

ステーションA^{エーアイ}i整備事業費 64,340千円
(外に債務負担行為 14,378,000千円)

○「ステーションA i」の整備推進

- ・PFI事業者の選定、PFIによる施設整備
開設時期：2024年10月 場所：県勤労会館跡地(名古屋市昭和区)
- ・コンセッション方式による運営体制構築に向けた検討

プレ・ステーションA i事業費 193,891千円

○「プレ・ステーションA i」の開設・運営

- ・WeWork グローバルゲート名古屋内に設置している「ステーションA i」早期支援拠点を発展的に解消し、本県のスタートアップ関連事業を集中的に展開
- ・「あいちスタートアップワンストップセンター」における、統括マネージャーによる起業や既存企業との協業に向けた支援及びビジネスプランコンテストを実施

スタートアップ・サテライト支援拠点事業費(新規) 23,150千円

○東三河地域における統括マネージャーの設置

- ・東三河地域の支援機関等との連携の上、地元スタートアップのビジネス拡大等を支援

海外スタートアップ支援機関連携推進事業費 415,037千円

○世界最高水準のアクセラレータープログラムの展開(新規)

- ・世界トップレベルのアクセラレーターによる、県内等のスタートアップの成長支援と、グローバルスタートアップと県内企業の協業を促進するプログラムを実施

○海外のスタートアップ支援機関・大学との連携

- ・アメリカ・テキサス大学、シンガポール国立大学、フランス・INSEAD、中国・TUS ホールディングス等の先進的なスタートアップ支援機関と連携した支援プログラムを実施

○スタートアップ等の海外連携促進

- ・「あいち・なごやスタートアップ海外連携促進コンソーシアム」によるスタートアップの海外展開支援、海外スタートアップとの商談会の開催

スタートアップ支援事業費 101,088千円

○ベンチャーキャピタルとのネットワーク構築(新規)

- ・あいちパートナーVC(ベンチャーキャピタル)の認定と、パートナーVCと県内スタートアップのマッチング支援
- ・資金調達相談窓口をプレ・ステーションA iに開設し、パートナーVCや統括マネージャーと連携

○首都圏等のスタートアップと県内企業とのマッチング支援

○起業支援金の支給・伴走支援

- ・起業に必要な経費を補助 上限額：200万円 補助率：1/2